

# 複便り

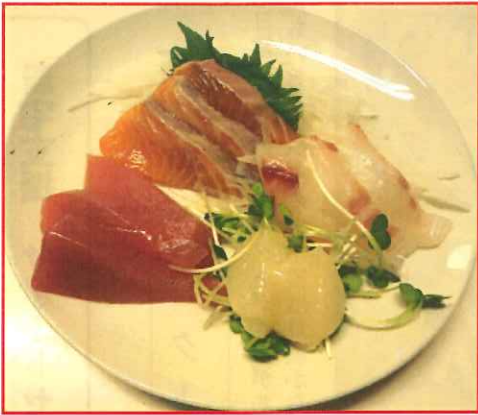
社会福祉法人 えのき会  
京都市伏見区桃山町山下44の8  
(075) 605 0303

## グループホーム ハックベリィ

### 『スーパープレミアムサタデー』

ご家族様より食事は人生の楽しみの一つというお言葉を頂いてできた『プレミアムサタデー』昨年より毎週土曜日に行っています。ご利用者様やご家族様に好みの料理を確認し、ご利用者様と一緒に選び、世話人さん協力のもとハンバーグや天ぷら等を作っていたいただき、美味しく食べていただいております。

今回はご利用者様のお誕生日ということで名付けて『スーパープレミアムサタデー』をさせていただきましたことになりました!!豪華に『お刺身盛り合わせ』をご提供させていただきました。スタッフがいなくと羨ましそうに言っていました。他にも茶碗蒸し、和え物、とろろ、汁物です。お食事前から笑顔が絶えず、スタッフも楽しくさせていただきました。いざ食事が始まると皆さん早いペースで食べられ、あっという間になくなりました。これからも続けていき、ご利用者様の人生に少しの幸せをお届けできたらと思います。

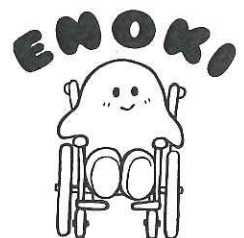


## グループホーム ベル

### 『イルミネーション』

ベルの2月のおでかけはイルミネーションを見に枚方パークへ。防寒もしっかりしつつ、どんなイルミネーションが見れるだろうとワクワクしながら出発!前回枚方パークに行ったときは入園の際拒否が何度も見られた利用者さんも、今回は拒否なくスツと入園できほつと一安心。入園してからイルミネーションの点灯まで時間があつたため自由行動。「前も来たことある!」とそれぞれ思い思いに園内を散策されていました。

その後園内のレストランで夕食。いつもと違う雰囲気でも美味しく感じられたようで皆さんペロツと完食されました。食べ終わるとちようどイルミネーションも点灯しており、再び園内へ!夕食前とはまた違った幻想的な雰囲気を利用者さんも「きれい!」と仰っていた利用者さんもイルミネーションを見ると「嬉しい!」と一言。その言葉に職員もほっこりしました。イルミネーションをバックに全員の集合写真も撮って大満足。外が暗くなってから皆で電車に乗って帰って来るのも新鮮でした。利用者の皆様の笑顔が多く見られる1日になりました。



居宅支援 サポートセンター めい

『ピクトグラム』

日常の風景の中にピクトグラムがあるのは知っていますか？なんの事！？と思う人もいると思いますが、実は日頃からよく目にはしています。



上の画像がピクトグラムといわれるものです。ピクトグラムあるいはピクトグラフとは、一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号(サイン)の一つである。地と図に明度差のある2色を用いて、表したい概念を単純な図として表現する技法が用いられる。主に鉄道駅や空港などの公共空間で使用され、文字による文章で表現する代わりに、視覚的な図で表現することで、言語に制約されずに内容の伝達を直感的に行う目的で使用されているそうです。

少し前から地下鉄の車両内の車イスのピクトグラムの下にベビーカーのピクトグラムも追加されています。また、地下鉄の表示もピクトグラムが使われています。表示が変わっている事には全然気づきませんでした(笑)

いろんなピクトグラムがあるので外出の合間に探してみてもどうでしょうか。場所によっては、面白いピクトグラムが発見できるかもしれません。

突然ですが問題です。次のピクトグラムは何を表しているのでしょうか？

- ① ② ③ ④



問題の答え

- ① エレベーター ② エスカレーター  
③ 階段 ④ コインロッカー

研修報告

職員の感想

法人研修「権利擁護研修会」  
日 時：平成30年3月11日(日)  
10:00~12:00  
場 所：さくらの家 2階会議室  
講 師：京都造形芸術大学准教授 岸本栄嗣 氏  
研修内容：発達年齢と生活年齢の違いに焦点を合わせ、支援職としてどうとらえていけばよいのかと人間性の尊重と権利擁護を考える。

WELCOME



○相手のみえないおもいに気付く推し量る。客観的事実が外部観察とするとこれらは内部観察ということになり、みえない内部をどう観察するのか？という問いの人の回答として今回の主観や主体的体験の活用が提案されたのだろうと。他方、主観の質とも言うべきか、自分自身がこう感じた、というものがあつたとしても、それが目の前の一利用者のおもいからかけ離れているような可能性がないと決して言えないわけで、その距離を縮めるべく、主観を磨いていくといったことを意識していきたい

○日々の支援の中で無意識にしている事を改めて見直す機会になったと思う。

○それぞれの“主観”が重要なことがわかった。視点を広げ、より利用者さんの主観に近づくものを汲み取れるよう自分の主観・感じに敏感になっていきたい。言葉遣いや関わりについて日頃から悩むことも多く改めてじっくり考えていかなければならないと思われた。

○この研修で聞いたことではないものの、今回、思い起こされたもので「主観で切り取り、客観的に(その切り取った場面を)みつめる」といった内容の実践論があつて、客観を補完するための主観、主観を修正するための客観といった相互補完的なイメージでもって実践を重ねていければなあと思つています。

○「人は相手によって態度が変わる存在」という言葉が印象的だった。支援や育成の中でこうなつてももらいたいという気持ちがあり相手を受け入れる事ができない事があつたのではと思う。この言葉を意識し支援・育成に携わっていききたい。

○客観的なことも大切にしつつそこで、自分や相手が何を感じたかという主観も大切にしていきたい。「語り合い法」というものを知り利用者さん・職員ともに伝え合うことを大切にしていきたいと思つた。